第 003 講 主張と具体例の対応を読む

到達目標

筆者が明示した主張を見つけ、それを具体例がどのように支えているか説明する。

読むときのルール

意見を述べる文章では、筆者の判断や勧めを**主張**として捉える。具体例は、その主張や理由が、実際の場面でどう表れるかを示すものだ。次の順に対応を確かめよう。

1. **筆者の判断と、その理由を探す**。 筆者がどう考え、何を勧めているかを押さえ、それを説明する一般的な理由と区別する。
2. **具体例を一般的な説明と比べる**。 人物・場面・動作が詳しく書かれた部分を探し、どの説明を具体化しているか確かめる。
3. **動作と結果をつないで読む**。 何をした結果、どうなったのかを追い、そのどの点が主張を支えるかを説明する。

例に出てきた出来事だけを文章全体の主張にしない。また、事実や仕組みを説明する文章で意見が明示されていない場合は、何でも「主張」と呼ばず、文章の**中心内容**を捉える。

©ミライコーチング

英文

英文

Students often begin group projects with exciting ideas but no clear plan for their work. I believe every student group should make a short plan together before starting a school project. A short plan does not need many rules or a long discussion about small details. It gives each member a clear job and prevents repeated work. Then students can focus on their own tasks and carefully check the final result as a group.

For example, four classmates need to make a poster for their school festival. Before they begin, they write a list of jobs on a sheet of paper. Two students want to draw the main picture, so they use the list to choose different jobs. One draws the picture, another writes the event time, and the other two check the words and colors. No one draws a second copy of the main picture, and the group has time to check the poster carefully. The finished poster is ready for the festival, and each student can see their own work on it.

語注：group project「グループで取り組む課題」／classmate「同級生」／festival「文化祭・祭り」／copy「写し、もう 1 枚」／final result「最終的な仕上がり」

©ミライコーチング

問題

1

筆者が文章全体で明示している主張を、日本語で簡潔に答えよ。

2

第 2 段落で、4 人の同級生による文化祭のポスター制作を使った具体例が始まる文を探し、その文の**冒頭 4 語**を英語で抜き出せ。句読点も原文どおりに書くこと。

3

問 2 の具体例は、計画によって各自の担当や作業の重なりがどう変わるという、第 1 段落の説明を具体化しているか。日本語で答えよ。

4

問 2 の具体例では、生徒たちのどのような行動とその結果によって、短い計画が役立つことを示しているか。日本語で答えよ。

5

第 2 段落は第 1 段落に対して、文章全体でどのような働きをしているか。日本語で答えよ。

©ミライコーチング

解答・解説

1

模範解答

どの生徒グループも、学校の課題を始める前に、一緒に短い計画を立てるべきだということ。

根拠は第 1 段落の次の一文だ。

I believe every student group should make a short plan together before starting a school project.

I believe に続く内容が判断の中心になる。should make a short plan together は「一緒に短い計画を立てるべきだ」という意見を直接示している。続く文は、その計画に必要なことや、計画によって得られる効果を説明している。第 2 段落のポスター作りも、この意見を確かめるための場面だ。

「グループ活動について」という話題だけでは、筆者が何を勧めているかが抜ける。「文化祭のポスターを作ること」と答えると、後半の具体例だけを全体の主張にしてしまう。答えには、筆者の判断を表す「〜べきだ」を残す。

2

模範解答

For example, four classmates

第 2 段落の冒頭で、一般的な説明から 4 人の同級生の場面へ移っている。For example は見つける手がかりだが、決め手は、その後に人物・ポスター・文化祭という具体的な場面が実際に書かれていることだ。

空白で区切った語を数えると、**For［1 語目］／example,［2 語目］／four［3 語目］／classmates［4 語目］**。コンマは example, に付けて写し、続く need は 5 語目なので含めない。抜き出しに文全体を書く必要はない。

次の Before they begin, で始まる文は、すでに始まった具体例の中で準備の様子を述べている。設問が求める「具体例が始まる文」と区別しよう。

3

模範解答

短い計画によって各自の担当が明確になり、同じ作業を重ねて行うのを防げること。

第 1 段落の It gives each member a clear job and prevents repeated work. が、具体例に限らない一般的な効果を述べている。It は直前の短い計画を指す。
問 1 が尋ねたのは「事前に計画を立てるべきだ」という筆者の判断だった。ここで尋ねているのは「その計画が仕事の進め方をどう変えるか」という、もう一段限定された説明だ。ポスターや絵などの個別の出来事を書かず、担当の明確化と作業の重複防止を、計画の効果としてまとめる。

4

模範解答

2 人が同じ絵を描きたがったが、仕事の一覧を使って別々の担当を選んだため、絵を二重に描かずに済み、ポスターを丁寧に確認する時間も確保できたこと。

具体例で起きたことを、動作から結果へつなげて読む。第 2 段落では、まず 2 人がメインの絵を描きたがり、一覧を使って別の担当を選んでいる。その後、同じ絵をもう 1 枚描く人はおらず、グループにポスターを確認する時間があると述べられる。

本文の根拠	動作と結果の対応
use the list to choose different jobs	一覧を使って別々の担当を選ぶ
No one draws a second copy of the main picture	同じ絵を二重に描く作業が起こらない
has time to check the poster carefully	ポスターを丁寧に確認する時間を確保できる

「分担が明確になり、重複が防げた」だけでは問 3 の一般論とほぼ同じになる。問 4 では、**何を使って担当を変え、どんな重複が起こらなかったか**まで、本文の具体的な動作に沿って書く。

ミライポイント！

具体例を説明するときは、「一般的に言える仕組み」と
「その場面で実際にしたこと・起きたこと」を分ける。
先に仕組みを押さえ、次に動作と結果を照合すると、
主張を支える部分だけを選べる。

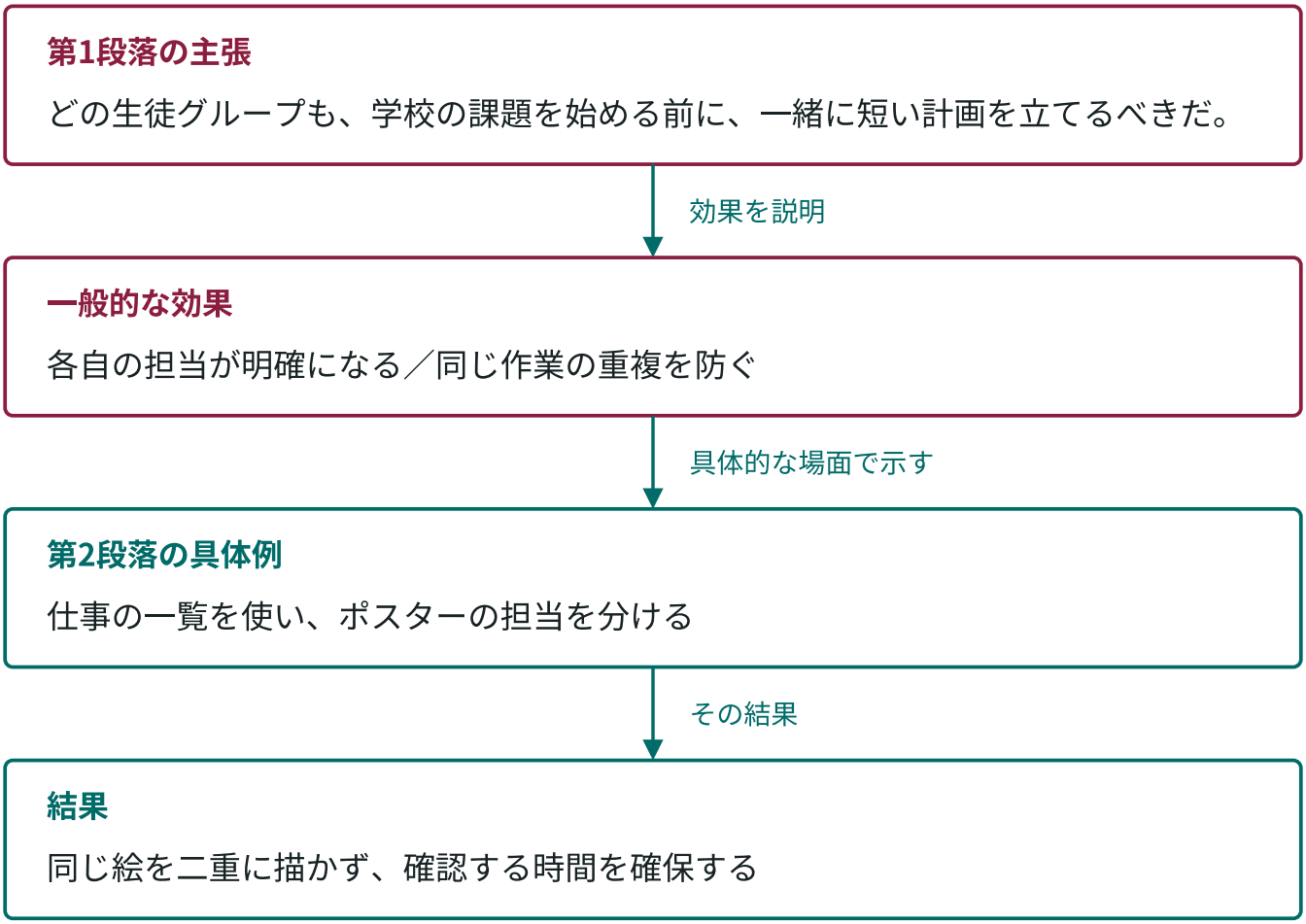
5

模範解答

第 1 段落で示した事前の計画についての意見と一般的な効果に対し、第 2 段落がポスター制作の具体的な場面を示し、その効果が作業の中でどう表れるかを説明して支える働き。

この問題は「第 2 段落に何が書かれているか」だけではなく、**前段落の説明に対して何をしているか**を読む。第 1 段落には計画を勧める意見と、分担・重複防止の説明がある。第 2 段落は新しい主張に切り替わるのではなく、一つの場面を通して前段落の説明を具体化している。
模範解答は「前段落で示した意見・説明に対し／後段落が具体例で支える」という形に整える。本文の意見文をもう一度丸ごと答えるだけでは、段落同士の働きを説明したことにならない。

主張と具体例の対応



具体的な行動と結果が、前段落の説明を支える

全文の構造分析

S＝主語、V＝動詞、O＝目的語、C＝補語、M＝修飾語を表す。O1・O2 は第一・第二目的語。〈 〉は名詞句・節、〔 〕は形容詞句・節、( )は副詞句・節を示す。
句・節の内部は S′・V′などと区別し、英文のすぐ下に示す。外側の文全体の注釈は、その下段で読む。さらに内側の構造ではプライムを重ねて区別する。等位接続で共有する主語や助動詞は、前の部分から補って読む。

役割色: S 主語 / V 動詞 / O 目的語 / C 補語 / M・その他 修飾等

Students(S) often(M) begin(V) 〈group projects〉(O) (with exciting ideas but no clear plan 〔for their work〕)(M). I(S) believe(V) 〈〈every student group〉(S′) should make(V′) 〈a short plan〉(O′) together(M′) (before 〈starting(V″) 〈a school project〉(O″)〉(M′)〉(O). 〈A short plan〉(S) does not need(V) 〈many rules or a long discussion 〔about small details〕〉(O). It(S) gives(V) 〈each member〉(O1) 〈a clear job〉(O2) and prevents(V) 〈repeated work〉(O). Then(M) students(S) can focus(V) (on their own tasks)(M) and carefully(M) check(V) 〈the final result〉(O) (as a group)(M).

(For example)(M), 〈four classmates〉(S) need(V) 〈to make(V′) 〈a poster〉(O′) (for their school festival)(M′)〉(O). (Before they(S′) begin(V′))(M), they(S) write(V) 〈a list 〔of jobs〕〉(O) (on a sheet 〔of paper〕)(M). 〈Two students〉(S) want(V) 〈to draw(V′) 〈the main picture〉(O′)〉(O), so they(S) use(V) 〈the list〉(O) (to choose(V′) 〈different jobs〉(O′))(M). One(S) draws(V) 〈the picture〉(O), another(S) writes(V) 〈the event time〉(O), and 〈the other two〉(S) check(V) 〈the words and colors〉(O). 〈No one〉(S) draws(V) 〈a second copy 〔of the main picture〕〉(O), and 〈the group〉(S) has(V) 〈time 〔to check(V′) 〈the poster〉(O′) carefully(M′)〕〉(O). 〈The finished poster〉(S) is(V) 〔ready for the festival〕(C), and 〈each student〉(S) can see(V) 〈their own work〉(O) (on it)(M).

believe の後ろは、that が省略された名詞節全体を O として示した。before はここでは前置詞で、starting a school project がその目的語となる動名詞句だ。starting の意味上の主語は every student group と読み取る。
focus の後の on their own tasks は、ここでは M として示す。and carefully check では、前の students と can を共有する。
最後の文の their は each student を受ける、性別を限定しない単数の用法だ。

一文ずつの対訳

対訳

Students often begin group projects with exciting ideas but no clear plan for their work.
生徒たちはグループで課題に取り組むとき、面白そうなアイデアは持っていても、作業の明確な計画がないまま始めることがよくある。

対訳

I believe every student group should make a short plan together before starting a school project.
私は、どの生徒グループも学校の課題を始める前に、一緒に短い計画を立てるべきだと思う。

対訳

A short plan does not need many rules or a long discussion about small details.
短い計画に、たくさんの決まりや細かなことについての長い話し合いは必要ない。

対訳

It gives each member a clear job and prevents repeated work.
それは各自に明確な担当を与え、同じ作業の繰り返しを防ぐ。

対訳

Then students can focus on their own tasks and carefully check the final result as a group.
そうすれば、生徒たちは自分の担当に集中し、グループで最終的な仕上がりを注意深く確認できる。

©ミライコーチング

対訳

For example, four classmates need to make a poster for their school festival.
例えば、4 人の同級生が学校の文化祭のポスターを作らなければならない。

対訳

Before they begin, they write a list of jobs on a sheet of paper.
作業を始める前に、彼らは 1 枚の紙に仕事の一覧を書く。

対訳

Two students want to draw the main picture, so they use the list to choose different jobs.
2 人の生徒がメインの絵を描きたがるので、その一覧を使って別々の担当を選ぶ。

対訳

One draws the picture, another writes the event time, and the other two check the words and colors.
1 人が絵を描き、別の 1 人が行事の時刻を書き、残りの 2 人は言葉と色を確認する。

対訳

No one draws a second copy of the main picture, and the group has time to check the poster carefully.
メインの絵をもう 1 枚描く人はおらず、グループにはポスターを丁寧に確認する時間がある。

対訳

The finished poster is ready for the festival, and each student can see their own work on it.
完成したポスターは文化祭に向けて準備が整っており、どの生徒もその中に自分が手がけた部分を見ることができる。

©ミライコーチング